



今年の年賀状への添え書きは「今年もボランティア活動が続けます(環境・防災...)」と同窓会関連などでした。環境とは滋賀県地球温暖化防止活動推進員ほかの活動であり、防災とは自然災害への対策・対応などで、おうみ未来塾絡みで立ち上げた「自主防災防犯研究会」と草津市役所等のご支援で立ち上げた「草津市災害ボランティアコーディネーター会(含年度運営訓練)」で、何れもそれぞれの啓蒙・啓蒙にイベント参加

## 発想と着手・進展のかたち

「古きを尋ねつつ」

小寺 實

(理工学部電気工学科 昭和三十七年卒)

(パネルや模型・実物展示説明など)や出前講座などを行っていきます。大学同窓会は1993年に三回目を衣笠で、回を重ねつつ2019年には立命電友会のご支援のもと六回目をびわこ・くさつ・キャンパス(BKC)で開催(本紙第53号でご紹介)しました。今年も新しい発想のもと開催準備が進められつつあります。この間に立命電友会S37幹事への勧誘があり、着任二期八年目を迎えています。さて、大学と地域の取り組みとして、草津市との「立命館びわこ講座」は例年実施されており参加した年もあります。去る一月二十四日には、文部科学省と滋賀県教育委員会共催の「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムと「学校を核とした地域力強化プラン」研修会があり、草津市生涯学習課・社会教育委員として参加し

## 目次

- P1 …… 巻頭言
- P2~3 …… 退職のご挨拶
- P3 …… 卒業生からの投稿
- P4 …… 在学生からの投稿
- P5 …… 電子システム系表彰者一覧
- P5 …… 就職状況(1)
- P6 …… 就職状況(2)
- P6~8 …… 同窓会だより
- P8 …… 追悼文
- P8 …… 訃報・事務局便り



ました。この時、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の説明で使われたのがPDCAサイクルでした。

図は嘗て環境講座で使用したもので、方針達成への取り組みの手順を示し、

Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)のPDCAサイクルを描いていて、この方式を駆使してパイラルに運営・管理を展開していくものです。顧みますに、新入社員研修で刻み込まれたことが、今一般に広く膾炙され実用されているのです。加えてここに至る活動テーマ・目的・目標の探索には、ブレインストーミング(集団発想法)で得た提案や意見をカードで纏める、KJ(川喜多次郎)法(データ纏めの方法)があり、そしてNM(中山正和)法(アイデアを発想する思考法)がありました。進行にはファシリテーター(手順促進者)の配置も有効です。卒論は「ロートロールによる自動制

御」で、故馬場鎮一君と夏休みでの実験中心に取り組みました。ここではフイードバック(帰還)は必須の論理点でしたが、この様な発想での検討は微塵もありませんでした。

これら手法に加えて、更には運営に関連する資源「人・物・金・情報」そして「時間」を考えねばなりません。以下では、人的交流と人脈づくり、そして特別能力の効用を考えます。

当時の教科では、電機機器の設計製図は墨汁をつけた烏口とT字定規でトレーシングペーパーに描いていましたし、漸く講義に台形トランジスタなどが出て来つつありました。そして社会はパソコン利用が進み、ソフト技術が進むに連れて、若干自身でも手を染めることのあった、情報システムの構築が進められたのです。しかし、人と人との交流が重視されることには何ら変わりありません。テーマある情報交換や研修などの場が作られ、企業としての加入・参加がありました。

- ・地域工業会
- ・地域商工会議所
- ・地域行政関連部署
- ・大学・高専との情報交流
- ・関連会社技術者交流会 など

その他、(財)日本生産性本部主催の1990技術経営欧米調査団(グローバルゼーションとR&D戦略―摩擦克服と協調へのマネジメントスタイルを求めて)に参加し、新たな経験を積むことが出来まし。行程はワシントン↓フィラデ

ルフィア↓プリンスン↓ニューヨーク↓ミラノ↓フィレンツェ↓ミュンヘン↓シユツツガルト↓パリ等で、会議、懇談、フォーラム(公開討論会)、見学・研修、評価等の17日間の活動でした。1989年11月10日(金)に帰国しましたが、その一日前にあのベルリンの壁が崩壊したのでした。ここでは知的財産を担当しましたが、関連業界各社参加の人々とは今も交流が続いています。

他にも、企業に必然性のあるもの許りではありませんが、人格的な備えに役立っているものもありました。

- ・電気主任技術者資格
- ・エネルギー管理士(電気)
- ・電気工事士
- ・アマチュア無線資格 など

例えば、電子デジタル化が進み、既存部品の電氣的特性確認に役立ったり、また、工場では電氣保全のための責任者や省エネ化制度への必須の資格ともなっています。半導体製造関連装置の技術導入と国産化担当の過程には多少なりとも役立てられたと思っています。

この様な教示・知見、そして経験などが、当時の立ち位置を醸成していたのでしょうか。この先もいいビジョンを持ち、目的・目標をしっかりと定めて、やり甲斐のある活動に取り組む必要性を感じます。

立命電友会の皆様には、健康を基として、益々のご活躍のあることを願っております。

## 退職のご挨拶

## 退職にあたって

電気電子工学科

教授 服 藤 憲 司

私は、2008年4月に、電気電子工学科に着任し、本学に12年間、勤務させていただきました。在職中は、ご指導頂きました諸先生方、様々な場面で支えて頂きました職員の皆様、ともに研究を行ったり、講義を受けて議論を交わした学生諸君、すべての方々に厚くお礼申し上げます。あらためて、大変にお世話になりました、ありがとうございます。

私は、大学院を修了後、諸事情により、幾つもの職場を転々とする事になり、そのたびごとに、担当する業務の専門分野を変えてきました。そういった事情ですので、「あなたの専門は何ですか?」と問われた際には、「物理・工学一般です」とお答えすることが多かったように思います。悲しいかな、専門性が希薄なのです。

さて、本学に着任する以前に、私がずっと興味を抱いていたものは、植物と昆虫とエネルギーでした。野原や山を

駆け巡って、植物や昆虫を追いかけていった子供のころの興味を、そのまま職業として実現したいと、大学受験の際は、理学部生物学科を目指そうと思っていました。しかし、なぜか、受験直前に、この分野では食べていけないのでは、と計算的に考えるようになり、結局、エネルギー分野の工学部に入りました。その後、この打算的な判断は間違っていたのではないかと、とずっと私を悩ませました。

このような事情もあって、本学への採用にあたっては、植物と昆虫とエネルギーを組み合わせた、光合成デバイスの研究を行いたい、と説明した記憶があります。昆虫がどのように関係しているかは、難しいところですが、着任して研究テーマを、具体的に決めなければなりません。全く、白紙です。過去に携わったテーマを行うつもりは、全くありません。予算も限られています。研究室が2部屋与えられています。あらためて、光合成デバイスの可能性を深く検討してみました。このような条件で、経験のない素人が短期間にテーマを立ち上げていくのは、どうも困難である、という判断に至りました。

た。

着任してからの半年ほど、いろいろな考えをぐるぐる巡らせ、様々な調査を行った末、なぜか、「有機太陽電池」というテーマにたどり着きました。このテーマは、「光合成デバイス」とは、似て非なるもので、やはり違うものです。光合成デバイスを仏に例えるのは失礼だとは思いますが、しかし、私は、有機太陽電池は、光合成デバイスの化身だと思いました。ただし、私は、有機材料に対する知識も太陽電池を扱った実験経験も、ほぼ皆無です。研究設備の準備のための予算的な検討を行いました。こちらの方は何とかなりそうだと、わかりました。本当に、このテーマでやっていくって、責任をもって指導できるかな、とは少し思いました。これ以上考えても仕方がないと、吹っ切れた気持ちになりました。

研究室を開設した最初の年、その後の2、3年の間に配属された学生諸君は、特に優秀で、馬力がありました。試行錯誤を繰り返しながら、今思えば無駄な実験も、時間をかけてたくさん試しながら、いろいろなことがわかってきて、楽しく研究を進めることができたように思います。本学での研究を振り返ってみて、ちよつと残念だったことは、

研究の進め方が、やや保守的で地味になりすぎてしまったことです。もう少し、いろいろな関連分野に挑戦的にあたっていけば良かったかな、とは思っています。

退職したのは、しばらくは、電気電子学科や他学部の教学に、微力ながら携わらせて頂きます。いろいろな意味で、研究室の学生諸君と、研究を中心とした苦楽を共にできたのが、在職中の醍醐味と言えるのですが、それがなくなるのは、ホッとすると同時に、寂しさを感じるのだらうと思います。指数関数的に衰え行くと推測される脳力に、いくばくかの歯止めをかけるべく、これからは、紙とペンとパソコンを使って、いままでも多忙を理由に避けてきた、幾つかの実験の物理解釈の解明に、挑戦しようと考えています。最後になりましたが、電子システム系のご発展と、立命電友会の皆様の今後のご活躍を祈念いたします。

## 退職のご挨拶

電気電子工学科

深 尾 隆 則

私は本年3月末をもちまして、退職させていただきますこと

になりました。着任から5年間という短い期間で退職し、皆様方にご迷惑をお掛けすることになり、大変申し訳なく思っております。またこの期間に学系長・学科長も務めさせていただくなど、皆様には大変お世話になり、感謝いたしております。

私はこの5年間に、農業の自動化・ロボット化、自動車の自動運転、消防活動支援ロボットなどに関する研究開発を行ってきましたが、常にその根底には「技術で人の幸福に貢献したい」というものがあります。もちろん、幸福感は人それぞれですし、あくまで手段の提供になりますが、新たな技術を組み合わせることで、考えもしなかった世の中を実現できるのではないかと考えております。

アメリカのカネギーメロン大学に約20年前に2年間ほど滞在し、その影響が非常に強いのですが、どの研究も実車・実機を伴い、実際の環境で動かすということを強く意識しています。このため、学外での長期に渡る実験を学生とともにこの5年間行ってきました。この成果に対して非常に大きな評価を得たと考えておりますが、これが達成できたのも学生の努力のおかげです。ただ、この努力する実践的環境・仕組みを構築し、

手助けするのが教員の役割と考えており、常に教え過ぎない、自ら考え学んでもらうことを心掛け、結果として学生には複雑化する社会で楽しく生き抜く力を持てるように支援してきたつもりです。

日本の教育は、「Education」の誤訳である、と良く言われておりますが、そろそろ真の教育に転換しなければならぬと考えています。時代背景は異なりますが、福沢諭吉の文明教育論（『時事新報』時事新報社、1889（明治22）年8月5日発行）に「無限の事物を僅々数年間の課業をもつて教うべきに非ず、学ぶべきに非ず。たとえ、その一部分にてもこれを教えて完全ならしめんとするとときは、かえってその人の天資を傷い、活潑敢為の氣象を退縮せしめて、結局世に一人愚人を増すのみ。」「学校は人に物を教うる所にあらず、ただその天資の発達を妨げずしてよくこれを発育するための具なり。教育の文字はなほだ穩当ならず、よろしくこれを発育と称すべきなり。かくの如く学校の本旨はいわゆる教育にあらずして、能力の発育にありとのことをもってこれが標準となし、かえりみて世間に行われる教育の有様を察するときは、よくこの標準に適して教育の本旨に違わざる

もの幾何あるや。我が輩の所見にては我が国教育の仕組はまったくこの旨に違えりといわざるをえず。」との確に述べられておりますが、現在も同様ではないでしょうか。

前々理工学部長の笠原先生に、このような考え方にご賛同いただき、ちょうど設置が予定されていたAIO L (All-In-One-Laboratory) を拡張し、AIO-IOTに関する場をいただきました。理工学部1〜3回生の希望者を募って、AIOとIOTに関する内容を10週に渡り行うなど、自ら自由に考え、議論し、実行するというプロジェクト型の課外活動支援を3年間行つて来ました。さらなる発展を別の先生に託すことになりましたが、授業にまで展開されることを願っております。また、私も若い力を活かすために、今後も仕組み作りに入力を入れていきたいと考えております。最後にになりましたが、立命電友会の皆様、電子システム系の皆様のさらなるご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。退職の挨拶とさせていただきます。



## 「昭和の立命館と偉大な先輩方々」

隅田洋一

（昭和59年電気工学科卒業）

立命館に入学したのが40年前。下宿は4畳半ひとまで、共同トイレ、共同炊事場、風呂は銭湯だった。当時はそれが普通だった。パソコンが各研究室に設置されたのが4回生の時。スマホや携帯は当然なかったが、不便さを感じることはなかった。それは、会話が一杯ある時代であったからであろう。大学はあこがれの京都である。

入学したときに「神社仏閣をまわるべし」、それと「いろいろな職種のアルバイトを経験したい」「全国を旅行しよう」と考えていた。勉強して立派な大人になりたい、などと考えたことはまったく無かった。

当時の学生は多くがバイクに乗っていた。小回りが利くので便利である。時間があると京都観光ガイドブックの神社仏閣ごとに何月何日訪問とメモしていた。ほぼ制覇したと記憶している。アルバイトは、百万遍に学生相談所というのがあり、そこで日雇いのバイトが毎日斡旋されていた。会員証の実績欄が満タンの状態で3枚目に及んだ。かなりの職種を経験し、それぞれの仕事の苦労を知った。今はそれがネタの宝庫になっている。旅行は飛行機が高価な時代。国鉄の周遊券で全国行脚である。当時の学生旅行は相部屋が普通

だった。夜になると見知らぬ者同士の会話。度胸と会話術を習得したと思っている。

そんなことなので学業には力が入らず、1回生の時は半分ほどしか単位が取れず、特に語学は2回生からリスタートとなってしまった。それに2回生、3回生と専門的な講義が増えていったが理解がでないことが多くなった。単位を取るために教授陣にお歳暮送るべきかと考えたりもしたが、幸い講義を理解し試験問題を予想してくれる同級生がいて、その教えをこうもって単位だけは卒業条件を満たした。

他方、4回生の研究室は楽しかった。当時の松田教授とテーマを決めて3名のチームで自主研究。机上理論を確認する程度の実験であつたが、当時は実験設備が古かつたりでなかなか再現できない。何度も小さな実験を繰り返して、コツを得ては次に進めていく。夏休みの自由研究に毛が生えた程度であつたが自らすすめることに充実感があつた。ちなみに当時のテーマは「ホログラフィーの作成と再生」だったと記憶しているが内容はまったく覚えていない。

就職においては、専門面接ではほとんど明確に答えられず、学校推薦をいただいた企業も不採用で

あつた。ただ、これが自分は何をしたか考える機会となり、電気はほどほどに、それより人と接する機会が多い職種に方向転換した。就活後半戦からは技術的な質問には耳をそむけ、自身のとりえを訴え、そして中部電力に入社することになった。

中部電力には有名大学の卒業生が多数いたが、社内における立命の先輩方々は、ほぼ全員高い評価を得ていた。なんせ行動力が群を抜いていた。懸案事項があれば誰よりも先に動いていた。また、関西の私学はみなそうかもしれないが社交性が高い。会議等で音頭取りをしている先輩を何度も見た。そして何よりも人間味である。当時京都では、「結婚するなら京大、彼氏にするなら同ヤン、用心棒にするなら立ちゃん」と言われていたが、人を蹴落として、という先輩はおらず、社内外から高く信頼を得ていた。自身も何かあれば立命の先輩に相談したが、みんな親身になってくれて本当の兄のように、立命館卒を誇りに感じていた。そんな自分も4年前に退職。今は別会社で働いている。会社や立場が変わっても立命館で培った人間味は変わっていない。それを強みにまだまだ必要とされる存在であり続ける所存である。

最後に、今の学生は生活環境の変化とともに会話の必要性、価値観も変わってきたと思うが、立命館のよき伝統は未来永劫引き継がれてほしいと願っている。

「大学での学び」

立命館大学大学院  
博士課程後期課程  
深尾研究室

飯沼 亮介

はじめに

私は理工学研究科電子システム専攻・博士課程後期課程の1回生の飯沼亮介と申します。知的ビークルシステム研究室（深尾研究室）に所属し、フォークリフト自動化についての研究を行っています。今回はこの場をお借りして、これまでの私の研究活動について述べさせていただきます。

研究活動について

私が所属している研究室は、制御工学やコンピュータビジョンを中心とする自動化に関わるテーマを扱っています。私は、今の日本に必要な技術の一つである自動化・省力化の研究に携われるということに魅力を感じ、深尾研を希望しました。しかし、配属された当初、これまで学部の講義で、電気回路や電磁気を中心に勉強してきた私にとっては初めてのことが多く、苦労しました。制御理論の数式は複雑にみえ、先輩からいただいたプログラムは数千行にもおよびました。このような状況でし

たが、同期と勉強会を自主的にを行い、日頃から議論を重ね、理解を深めていきました。M1になる頃には、学んだ理論をプログラムに落とし込み、それによって実機を動かす、ということに楽しさを感じていました。

研究は、農作業のためのフォークリフトの自動化について行っています。フォークリフトは農作業において、農作物の運搬に用いられています。しかし、フォークリフトの操縦は、習得に5年から10年が必要ともされ、今後オペレータ不足が予想されています。そのため、フォークリフトの自動化が求められています。

普段は学内で実機実験を行っています。夏は実際の圃場で実験を行います。実験を行っていくと、理論やシミュレーションでは見えなかったことや、実際の環境で動かして初めて気づくことが出てきます。そこに難しさや面白さを感じつつ、周りの人と協力しあい研究を進めています。結果として、

これまで学会発表や成果実演デモを通して、多くの方々に研究を見ていただける機会があり、様々な意見を頂くことができました。今後は、頂いた意見を生かし、実用

化に向けさらに研究を進めていきたいと思っています。

これから

私は将来、人口減少や高齢化が深刻化していく社会にとって役に立つ価値を生み出す研究者になれるよう、これからも全力で手を動かし、考え、より一層研究に励みます。

おわりに

今回、この執筆を通じて、自身の研究への考え方を整理することができ、初心に立ち返ることができました。このような機会を与えてくださった電友会の皆さまに深くお礼申し上げます。また、普段からの確かなアドバイスと多大なるご支援をいただいている深尾隆則教授をはじめ、小野山博之准教授や同研究室の方々に感謝します。最後に、精神面から経済面まで支えてくれる両親に感謝します。



「研究室での学び」

立命館大学大学院  
博士課程後期課程  
深尾研究室

織田 泰彰

はじめに

私は、博士課程後期課程に在籍し、深尾研究室にて消防活動支援ロボットの研究開発を行っています。自らが主体となつて、「深く考え、手を動かし実装し、精度にこだわって評価を行う」ことができる環境があると考え、博士課程後期課程への進学を決意しました。本稿では、研究での取り組みについて述べたいと思います。

・研究活動を通して

「外界センサによる環境認識」「ロボットを効率的に動作させる経路生成」「機体の自律制御」の3つが私の研究するロボットの主要技術です。私は、これらすべての研究・実装を行っています。すべてを実用レベルで研究するのは大変なことですが、このような環境に身を置けたことは、一つの幸運だと思っています。各技術がそれぞれの難しさを含んでいますが、すべての技術を統合しシステムとして実装する時にしか直面できない問題も存在し、学生の間に経験で

きたことは大きなアドバンテージになると考えています。また、深尾研究室の特徴でもある実践的環境での実験も私の成長を助けてくれます。消防分野では、実践的環境として、屋内での動作、一般家屋などの狭所、走行面の凹凸（階段含む）などが挙げられます。これらの環境下でも高精度にロボットを動作させるためには、理論面を深めるだけでなく、実用面も強く意識しなければいけません。その中で、より「見える」センサの選定と配置、未知環境における効果的な経路生成手法、悪環境でも力を発揮する制御則を考え抜きました。その際、都度アドバイスをいただきましたが、鵜呑みにすることなくその内容を整理し、さらに深く考える糧とすることを意識しています。自分で考えて解にたどりつくには相応の時間を費やしますが、教えてもらうよりも大きく成長でき、次のより難度の高い課題に直面したときの「閃き」に繋がると信じています。今後も博士課程後期課程を、この環境を楽しみながら研究と向き合い、将来大きな価値を生み出せる人材になれるよう成長を続けたいと思います。

## ・おわりに

博士課程後期課程に入り、関わるプロジェクトも増え、様々な現場で活動させていただき、普通の学生にはできない経験をしていると実感する毎日です。この経験を財産とし、今後の研究活動がさらに良いものとなるよう日々努力します。この道に導いていただいた深尾隆則教授に感謝しております。また、研究に対し意見をいただき積極的に議論し合える仲間、諸先生方は大きな存在です。最後に、一人息子のわがままを認めていただき、すべてにおいて支えとなってくれている両親に感謝します。

電子システム系  
2019年度表彰者一覧

2019年度、在学時に学業・もしくは研究活動を活発に行ってきた学生27名が表彰されました。おめでとうございます。

○学業成績部門  
〔学部生〕  
(最優秀賞)

(五十音順・敬称略)

ABDUL Waif Bin Misbah

大山 達哉 (電気電子工学科)

計2名

○研究活動部門  
〔大学院生〕

(最優秀賞)

伊藤綜一郎 西川 広記

大江 佑京 宮崎 貴史

川原綾太郎 MENG Zein

工藤 裕也 計7名

(優秀賞)

飯田 啄巳 中川 晶司

榎山 法史 根来 俊輔

角田 和正 土師 優紀

佐野 隆貴 舟橋 勇佑

高橋 拓也 吉井 綸太郎

田中 伸哉 吉田 航介

友廣 隆貴 計13名

〔学部生〕

(最優秀賞) 対象者なし

(優秀賞)

伊藤 哲 (電子情報工学科)

西村祐一郎 (電子情報工学科)

伊藤 秀晃 (電子情報工学科)

増田 春樹 (電子情報工学科)

大山 達哉 (電子情報工学科)

計5名

2019 (令和元) 年度  
電子システム系卒業生修了生進学・就職状況

2020年3月修了・卒業の大学院前期課程生・学部生の進学・就職状況を表Ⅰに、就職先一覧を表Ⅱに示します(2020年1月27日現在)。

大学院前期課程の修了者数は123名、学部卒業生は265名です。大学院後期課程への進学者は3名、学部卒業生のうち107名が大学院前期課程に進学し、進学率は約40%です(昨年度は44%、一昨年度は48%)。

大学院前期課程修了生の98%(昨年度は99%、一昨年度は96%)、就職を希望する学部卒業生の内の71%(昨年度は80%、一昨年度は82%)が就職先を決定しています。ここ数年は大学院前期課程への進学率がやや低下傾向にありますが、大学院修了者の就職状況は好調であり、また大学院修了生は研究開発・設計職に就く人が多い傾向は続いています。

就職先の業種に関しては、電気・電子および機械系の比率が48%と例年通り最も多くなっています。情報システムや自動車なども引き続き堅調であるのに加え、

電力、通信などの業種も増加傾向にあります。また、電子システム系の分野は、各種素子・機器の製造、設備・システム・インフラの構築に必要な不可欠な技術を幅広く扱っているため、電気・電子関連の業種はもちろんのこと、機械、自動車、化学、建設、金属などの業種からも電子システム系の学生に対する要望が高まっています。

採用活動日程に関しては、2019年度は従来通り経団連の指針に基づいて企業説明会の開始が3月、選考開始が6月というのが公式の日程でした。しかしながら、実際には3月以前にOB訪問や短期インターンシップという形で実質的な広報活動が進むというのがここ数年の動向となっています。さらに、2020年度は経団連が指針を廃止することとなり、スケジュールを前倒しする動きも一部に出てきています。学生には、こうした動向を踏まえ、企業研究や自己分析を早めに開始して自身の職業イメージを醸成し、幅広く柔軟な視点をもって就職活動を進めてほしいと願っています。

キャリアセンターでは、最終学年前年の5月に第1回進路・就職ガイダンスを開催し、12月からは就活開始に向けた各種ガイダンス・キャリア支援企画を本格化させています。また電子システム系でも、低回生のときから教養基礎科目、専門科目に各種キャリア教育を積極的に取り入れており、OBの企業技術者、就職内定者による講演などを通して就職に対する学生の意識を早い時期から高める取り組みを行っています。諸先輩の皆様におかれましても、より一層のご支援をお願い申し上げます。

(就職委員 佐野 明秀)

## I. 卒業生・進学者・就職者一覧

(2020年1月27日現在)

|              | 卒業生 | 進学者 | 就職者 | 活動中<br>(内定あり含む) | その他 |
|--------------|-----|-----|-----|-----------------|-----|
| 大学院(電気電子工学科) | 77  | 1   | 75  | 1               |     |
| 大学院(電子情報工学科) | 46  | 2   | 42  | 2               |     |
| 電気電子工学科      | 160 | 68  | 67  | 25              |     |
| 電子情報工学科      | 105 | 39  | 45  | 20              | 1   |
| 合 計          | 388 | 110 | 229 | 48              | 1   |

## II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む) (順不同敬称略)

| 業 種                                  | 企 業 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工 事 業                                | (株)大林組、(株)きんでん、パナソニック環境エンジニアリング(株)、ダイダン(株)、クボタ機工(株)、(株)トーエネック<br>(6社/11名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 繊維・化学工業                              | 旭化成(株)<br>(1社/1名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 製 造 業<br>(金属・機械)                     | 京セラ(株)、日本碍子(株)、カナレ電気(株)、三井金属鉱業(株)、(株)LIXIL、(株)ダイフク、ダイキン工業(株)、ヤンマー(株)、川崎重工業(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、東芝エレベータ(株)、TOWA(株)、三菱重工機械システム(株)、(株)ユーシン精機、(株)京都製作所、(株)小松製作所、TMTマシナリー(株)、東洋エンジニアリング(株)、(株)マキタ、(株)イシダ、京セラドキュメントソリューションズ(株)、島津システムソリューションズ(株)、富士通フロンテック(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ<br>(24社/37名)                                                                                                                                                                                                                   |
| 製 造 業<br>(電子・電気)<br>(情報通信)<br>(輸送機械) | ローム(株)、日本テキサス・インスツルメンツ合同会社、キオクシア(株)、マイクロンメモリジャパン合同会社、ラピスセミコンダクタ宮崎(株)、(株)出雲村田製作所、ルネサスエレクトロニクス(株)、(株)キーエンス、(株)日立製作所、オムロン(株)、ニチコン(株)、パナソニック(株)、三菱電機(株)、住友電装(株)、日本電産(株)、(株)ニューリー・土山、(株)村田製作所、(株)小糸製作所、星和電機(株)、(株)GSユアサ、日新電機(株)、(株)福井村田製作所、(株)エネゲート、キヤノン(株)、日本信号(株)、TOA(株)、富士ゼロックス(株)、(株)SUBARU、(株)デンソー、(株)村上開明堂、(株)豊田自動織機、アイシン精機(株)、スズキ(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、三菱自動車工業(株)、(株)浅野歯車工作所、日本車輛製造(株)、NSKワーナー(株)、豊田合成(株)、(株)三井E&Sマシナリー、いすゞ自動車(株)、トヨタ紡織(株)、本田技研工業(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)ショーワ、ヤマハ(株)、任天堂(株)<br>(48社/94名) |
| 電気・ガス業                               | 四国電力(株)、中部電力(株)、電源開発(株)、中国電力(株)、北陸電力(株)、九州電力(株)<br>(6社/11名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 通信・放送業                               | (株)NTTドコモ、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、西日本電信電話(株)、ソフトバンク(株)<br>(4社/7名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 情報<br>サービス業                          | NECソリューションイノベータ(株)、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、三菱電機マイコン機器ソフトウェア(株)、富士通(株)、Sky(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、(株)インターワークス、(株)大塚商会、(株)ジャステック、(株)NTTデータ・アイ、(株)ラキール、(株)日本総合研究所、(株)日立ソリューションズ・クリエイト、(株)センスタイムジャパン、(株)大和総研、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、(株)フィックスターズ、オムロンソフトウェア(株)、(株)NTTデータSMS、日鉄ソリューションズ(株)、(株)コナミデジタルエンタテインメント、(株)デイス、システム(株)<br>(23社/24名)                                                                                                                                                                              |
| 鉄道・航空運輸業                             | 東海旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、東急(株)<br>(3社/3名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| そ の 他                                | ダイトロン(株)、リクソン・ジャパン(株)、ダイヤトレンド(株)、(株)ネクスティエレクトロニクス、三井住友信託銀行(株)、(株)広島銀行、(株)三菱UFJ銀行、東京電力ホールディングス(株)、阪急阪神ホールディングス(株)、(株)コーエーテクモホールディングス、ソニー(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、非破壊検査(株)、近鉄エンジニアリング(株)、三菱自動車エンジニアリング(株)、(株)メイテック、(株)VSN、(株)日立システムズ、(株)エステム、(株)富士通エフサス、総合警備保障(株) 朝日生命保険(相)、アフラック生命保険(株)、住友理工(株)日本アニメーション(株)、小松開発工業(株)、(株)ジャニーズ事務所、(株)堀場テクノサービス、(株)ニトリ、(株)ロッテ、野崎印刷紙業(株)、西日本高速道路(株)、山口放送(株)、国家公務員一般職、国家公務員総合職、廿日市市役所、外国企業(インドネシア共和国)<br>(37社/41名)                                                            |

## ● 同窓会だより ●

第16回昭和46年卒  
「電四六」会同窓会

昨年、災害の多い年になりました。同窓生は全国で活躍されており被害を受けられた方もおられるかと思えます。お見舞い申し上げます。

さて、新しい時代の令和がスタートし昭和が遠くに感じるようになりましたが、私たち昭和46年卒業は第16回目の「電四六」会を9月14日に開催することができました。

今回は場所も時間帯も従来から変更しております。京都駅前の新都ホテル(新名称…都ホテル京都八条)でお昼の時間に設定しました。古希を迎えて夜の時間帯より昼間の方が安全ではないか、また遠方からも参加しやすいのではとの思いです。

多くの参加者を得ることができ感謝しております。一方、訃報も届いております。

今回は出席者の近況報告と新しい趣向で仕事の失敗成功、初恋、出席されてない同友は何してる、等を織り交ぜ今までにないエピソードを披露していただき盛り上がりしました。

私は直前に奥様から訃報の知らせを受け取った清水さんの話を話



しさせていただき図書館で語り合ったことなど懐かしさがよみがえり学生時代を思い出ししております。卒業後は年賀状だけのお付き合いとなっておりましたがいつかは再会できるのではとの思いで同窓会を続けてきました。寂しさはありますがご冥福をお祈りいたします。

最後は恒例の合唱です。今回はCD演奏（応援団演奏）に沿って校歌、応援歌を熱唱し、続いて同ホテルのラウンジで二次会を開催しカラオケや歓談で時間を忘れ皆様楽しく過ごしました。

2021年は卒業後50周年を迎えることとなります。年齢とともに昨今は病気や介護の話が多くなりますが、これからの夢や学生時代の思い出を語らい今を楽しみませんか。

是非多くの同窓生が集まって頂きますようお願いしております。

(昭和46年卒 荻田 泰廣 記)

### 「荻屋研究室同窓会」

2019年11月23日(土)に京都駅前京都タワーマンションで「荻屋研究室同窓会」を開催しました。

恩師である荻屋公明先生は2012年3月に逝去されており、同年7月に「偲ぶ会」を行っていたが、その後、実に7年ぶりに「荻屋研究室」卒業生が一堂に集まる場になったということになります。

我が荻屋研究室で唯一母校に奉職されている高山茂教授が2019年4月から理工学部長に就任されるという情報に触れ、「一度集まろう」ということになったというのがきっかけです。

高山先生の学部長ご就任のお祝いを兼ねた同窓会であれば、仲間内だけで集まるのではなく、荻屋研全卒業生に声を掛けて、正式に同窓会として開催したいということになりました。

電友会事務局に連絡を取ってみたところ、電友会名簿では所属研究室も把握できているとのこと、同窓会の案内文の送付や回答の集計までお手伝いいただけるということでした。事務局の上田様には何かから何までお世話になり、この場を借りて御礼申し上げます。

何はともあれということで、高山先生のスケジュールとホテル宴会場の空き状況を調整したところ、ピンポイントで11月23日の勤務感謝の日しか空いていないということになってしまいました。

結果的に短時間で決定日程の案内になってしまったことと祝日にあたってしまったことで、「ほかの日程と重なってどうしても参加できない」というご連絡が多くあり、最終的に26名の参加にとどまってしまうことになりました。今回は、準備期間をしっかりとって、今回参加できなかった皆さんにもできるだけ参加しやすい日程にしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

それでも、当日は、東京や四国まで遠方よりの参加者も多く、42歳〜74歳と幅広い年代の卒業生にご参加をいただきました。

同窓会では、最初に荻屋先生はじめ物故者の方への黙とうから始まり、高山先生へのお祝いの花束贈呈、そして、高山先生からはプロジェクトの資料までご準備いただき、BKCと理工学部の現状を中心にお話をいただきました(写真)。

その後、参加者から「一言ずつ」ご発言をいただいたのですが、皆さんますますご活躍の様子で、



会場の予定時間を30分過ぎても終わらなく、ひやひやしながらも大変楽しく過ごさせていただきました。

当初の計画では、校歌を歌い、集合写真を撮って…と予定していたのですが、幹事までもが皆さんと一緒に盛りに盛りがあつた、写真の一枚も撮れず、あつたという間にお開きになってしまいました。参加者の方からご提供いただいた写真がありますのでその分を添付いたします。

「3年後ぐらいにもう一度集まりましょう」ということになりましたので、今回予定が合わず参加できなかった皆様には、ぜひ次回を楽しみにお待ちください。

(昭和53年卒 宮下 晋哉 記)

### 昭和59年3月卒業 「松田研究室」卒業36年 にしてはじめての集い

当時の松田研究室は14名。現在58歳〜59歳。人生の節目を前にしてメンバーと連絡が取れるのは今しかないのでは、との思いから、同窓会の開催に向けて動き出した。14名のうち12名が下宿生。学校帰りにピリヤードや夕食を一緒にすることが多く、どこよりも絆の深い研究室ではあったが、卒業後に会うことはほとんどなく、所在探し最大のポイントであった。

36年前の名簿をもとに、ご実家に電話。立命電友会事務局にも個人情報確認した。しかしながら、所在がつかめない者が多数。次に行ったのはネットで個人名を検索。ヒットしたら、その会社に「人探





しの電話です」と迷惑千万。そうしたところ14名全員が健在で、かつ、社会人として活躍していることがわかった。やはり立命館で苦楽を共にした仲間が最高。電話した途端に当時に戻り「みんなで会いたいよな」という話になる。うれしかった。そして2月8日(土)に同窓会を開催した次第。関東から九州と遠路の人がほとんどで大学にはご無沙汰という人ばかり。そこで、集合場所は「立命館大学存心館の食堂」とした。ドキドキしながら存心館の地下におりると、場に似合わないおじさんの団体。「オッー」と声をかけられても誰かわからない。きっと同級生だろうと思いつつ「久しぶり」と声をかけ返した時の面影から誰か類推する。久々の再会はそんな感じであった。その後、まず大学内を探索。研究室があった4号館

(現有心館)に喚起の声。当日は大学受験日で建屋に入ることには遠慮したが「あれが変わった。これはかわらん。」など、当時を思い出していく。

懇親会は場所を変えて、学生時代にもお世話になった圓山公園の「かがり火」。ここには、我々の同級生で現理工学部長の高山君も参加してくれて、大学の変遷や当時の先生方々の情報などを説明いただいた。我々はどういうと、今の生活とか卒業後どう歩んできたとかを聞いたら、と考えていたが思い出話がとめどもなく出てきて、「オー そんなことあったな」という会話の連続。あつという間に退店時間となっていました。お店を出るとき、たまたま隣室にいた立命館大学アーチェリー部の皆さんが、「先輩方々 おめでとうございます」とコメント、校友の結束を感じるひとコマも。その後

は全員で宿泊する旅館へ。結局3時まで会話が途切れることは無かった。

長時間の会話で一番多かったのはやはり松田研のこと。率先して研究し卒論を作成した人、それを転記した人。それぞれ役割があったはずだが、今になって前者からいろいろ意見がでるとは。そのほかにバンドで立命館音楽祭や夜祭

に出たこと、スキーへ行った話など話題豊富すぎてここにはとても書ききれない。

今回はみんなの今についても聞いてみたい。いつまでもいい仲間でいよう。ありがとう。

(昭和59年卒 荒井 康之 記)

## 訃報

昭和29年卒 佐藤研一郎 令和2年1月15日  
昭和32年卒 池田 育弘 令和元年12月24日  
昭和35年卒 三輪清二郎 令和元年10月17日  
昭和42年卒 南 能寿 令和元年10月6日  
昭和49年卒 吉村 恒雄 令和2年1月17日  
昭和50年卒 小滝 幹則 令和元年  
ご冥福をお祈り申し上げます。

## 追悼

池田 育弘 様 追悼文

『立命電友会第二期(1996年〜1999年)会長の池田育弘様が昨年12月24日にご逝去されました。』

池田様には黎明期の立命電友会を支えていただき、また、会長ご退任後も10周年記念事業の企画・運営に大変ご尽力を頂きました。池田様のご冥福を心よりお祈りし、謹んで会員の皆さんにお知らせいたします。』

立命電友会副会長

加藤 義彦 記

## 追悼

南 能寿 様 追悼文

『立命電友会第五期(2008年〜2012年)会長の南能寿様が昨年10月6日にご逝去されました。』

南様の任期中には、立命電友会設立20周年記念事業を盛大に開催いただきました。また、種々の会議に参加いただくなど、会の発展を支えていただきました。

南様のご冥福を心よりお祈りし、謹んで会員の皆さんにお知らせいたします。』

立命電友会事務局長

川畑 良尚 記

『2020年4月より』

・事務局が2人体制となります。新しく、「岸 千津代さん」に加わって頂きました。

二人の出勤体制

上田：月曜日、木曜日：10時〜17時 出勤

岸：火曜日、木曜日：10時〜17時 出勤

・立命電友会の専用電話(留守番機能付き)を設置致しました。

外線：077-5611-2554  
FAX：077-5611-2663  
メールアドレス：den-yu@st.ritsumei.ac.jp 共有となります。

立命電友会に用時は専用電話をご利用ください。

## 事務局便り

立命電友会会報54号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に對し心よりお礼をもうしあげます。新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの行事やスポーツイベントの中止が決定され、不安な情勢が続いています。

立命館大学では、卒業式・入学式の中止を決定し、立命電友会としても「入会式、卒業・修了祝賀会」を中止とさせていただきます。新入会員の皆さまや会員の方々には大変ご迷惑をお掛けいたしました。

この状況が一日も早く終息され、平穏な日常が戻る事を願うばかりです。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡頂きますよう、お願い申し上げます。(上田・岸) 4月より事務局は2人体制

立命電友会連絡先  
〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内  
立命電友会事務局 川畑良尚

上田美津子(月木)  
岸 千津代(火木)  
電話：077(561)2554  
FAX：077(561)2663

E-mail：den-yu@st.ritsumei.ac.jp  
http://ritsumei-den-yu.com/

(会報の題字は久保之俊氏)